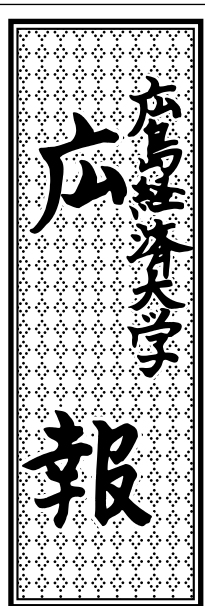


アカデミック・コモンズ「明德館」完成!



発行所
広島経済大学
広島市安佐南区祇園
五丁目37番1号
郵便番号731-0192
電話番号(082)871-1000(代)
ホームページhttp://www.hue.ac.jp/

2・3面 「明德館」フロア概要
4面 インタースhip報告/私の就職活動体験記
5面 写真でみる学生たちによる広経大二大祭典
6面 プロ野球投手誕生/
平成29年度A O・推薦入学試験結果報告



オープニングセレモニーでのテープカット

日本最大級のアカデミック・コモンズ「明德館」が正門を入ってすぐの場所(旧4号館・旧5号館跡地)に完成した。「ゼロから立ち上げる」興動人の育成を促進する新たな施設として活用が期待される。平成28年12月11日には、竣工式を挙行し、オープニングセレモニーなどが盛大に催された。

「明德館」の名は、大学の立学の方針である「大学の道は明德を明らかにするにあり」に由来する。これは中国古典、四書のひとつ「大学」の中の一文である。「明德」とは、天から受け



竣工式

必要となる3つの力を養成する3つの施設が揃った。こうした環境が整ったことにより、授業の課題から社会問題まで広く仲間と議論し、成果を発表する機会が増える。この積み重ねが、コミュニケーション能力や問題解決能力、プレゼンテーション能力、創造力の鍛錬につながる。各階には、靴を脱ぎ、ひざを突き合わせて話せるスペースや、全面ガラス張り

陽光に輝く「明德館」はスタイリッシュで美しく、大学の新しいシンボルとしてふさわしい建物となった。「明德館」の最大の特長は、地上10階建ての建物ですべて「学生たちの自由なアイデア創造空間」となっていることだ。各階の内部は、壁や仕切りを可能な限り取り払っているため、どのフロアも開放感に溢れている。窓ガラスが大きくとられていて、造りで、学生たちが「わいわい、ガヤガヤ」しながら学ぶ様子を外からもうかがうことができる。また、夜には部屋の灯りが輝き、今後は、遅くまで互いに議論を深める学生たちの姿を見ることができると期待されている。

た霊妙な徳性、人間が本来持っている「曇りのない本性」を意味する。本学は学生一人ひとりが学問研究を通じて本来持っている明德すなわち、「曇りのない本性」を磨き、前途有為な人間として自己を確立することを理念としている。これを実現すべく、本学は質の高い教育はもちろんのこと、学生がのびのびと学べる施設の整備に力を注いできた。

知識を深める「図書館」、実践によって人間力を磨く「興動館」、そして、主体的に学び、創造力と表現力を高めるアカデミック・コモンズ「明德館」。本学の人材育成目標である「興動人」に必要な3つの力を養成する3つの施設が揃った。こうした環境が整ったことにより、授業の課題から社会問題まで広く仲間と議論し、成果を発表する機会が増える。この積み重ねが、コミュニケーション能力や問題解決能力、プレゼンテーション能力、創造力の鍛錬につながる。各階には、靴を脱ぎ、ひざを突き合わせて話せるスペースや、全面ガラス張り

開学50周年記念事業として平成26年冬より建設が進んでいた日本最大級のアカデミック・コモンズ「明德館」がついに完成し、平成28年12月11日に竣工式を挙行した。併せてオープニングセレモニーと見学会が催された。竣工式には石田理事長や前川学長をはじめ学園関係者、建設関係者が参列し、地元の長束神社宮司による一連の神事が厳かに執り行われた。続くオープニングセレモニーでは、石田理事長、前川学長、石田優子副学長、川村保護者会会長、竹村同窓会会長ほか、総勢10名に



見学会の様子

能力や問題解決能力、プレゼンテーション能力、創造力の鍛錬につながる。各階には、靴を脱ぎ、ひざを突き合わせて話せるスペースや、全面ガラス張り

本学開学50周年を迎えるこの時期に「明德館」が完成したことは大変意義深いことである。40年以上も昔のことであるが、当時私が留学していたロンドン大学に、コモンルームという設備の整った学生の談話室があった。講義の合間などにそこに学生が立ち寄って喫茶を楽しみながら談笑したり講義の準備をしたりしていた。日本にもこのような施設があればいいなと思ったことがある。最近日本の大学にも、それに近い施設が増えてきて、それらはラーニングコモンズと呼ばれている。しかしこの度本学に完成したアカデミック・コモンズ「明德館」は、地上10階建て、総床面積11,648平米もあり、昔のコモンルームが進化したものと言える。その中にはゼミごとに集えるスペース、演習室、カフェ、様々な用途に自由に使えるフリースペースなどが用意されている。各スペースは簡単な可動式のベンチで仕切られるだけでなく、周辺のゼミなどとの交流もしやすくなっている。

まさしく、アクティブラーニングの実践の場という「明德館」建設の基本的コンセプトに沿ったものである。学年、ゼミ、サークルなどの垣根を越えて交流することによってお互いに切磋琢磨し、そこから新たな発想や活動が生まれることが期待される。50年の伝統を引き継ぎつつ未来に向かって、「明德館」から新しいタイプの学生が育ってこれることを期待している。

明德館完成にあたって

学長 前川 功一



1F Event Floor



【エントランスロビー】
エントランスロビーでは、「ここから世界へ」のメッセージが込められたモニュメントが出迎える。



【明德ホール】
可動式のイスやパーテーションを並べ替えることで、セミナーや学生の成果発表など中規模のイベントや講演会を開催することができる。

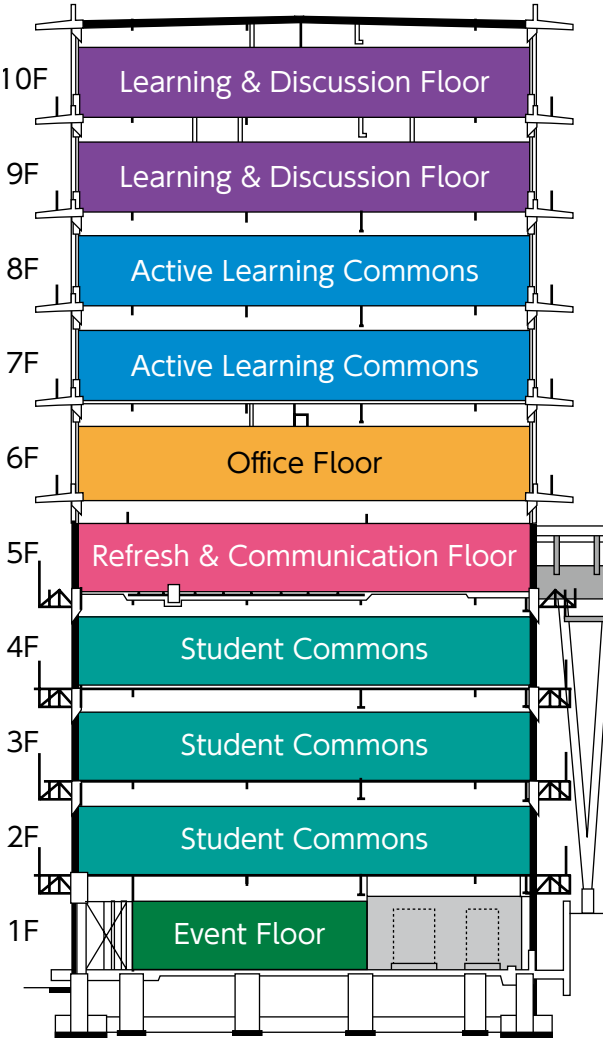
「明德館」 フロア概要



2F ~ 4F Student Commons



【スチューデントcommons／フロア全体】
ベンチで区切られたゼミスペースが 1フロアに 24 区画ずつあり、各ゼミに 1 年間割り当てられる。区切りとしての可動式ベンチは、隣接するゼミとの共有スペースとなり、交流の広がりを手助けするツールにもなっている。長屋のようなイメージで他のゼミともゆるやかなつながりを保てる心地よい空間が広がる。





【各ゼミのブース】
学生が自分たちの「居場所」として過ごしやすい環境を自ら考えて演出することが可能。ブースごとに設置される 5 色のカラフルな棚には写真やチラシを貼ることができ、各ゼミの特色を表現する「表札」としても活用できる。

- 階 数：地上 10 階
- 構 造：鉄骨鉄筋コンクリート造
- 建築面積：1,855㎡
- 延べ面積：11,648㎡
- 設計監理：株式会社 日建設計
- 施 工：五洋建設 株式会社
- 着 工：平成 26 年 12 月 22 日
- 竣 工：平成 28 年 10 月 31 日

5F Refresh & Communication Floor



【ウッドデッキエントランス】
「学生会館リブレ」、「6 号館」方面からウッドデッキでつながっている。建物に向かって細くなるデッキの形状は、まるで明德館に招かれているような錯覚を覚える。



【リトルマーメイド（ベーカリー）】
広島のお洒落ベーカリーである「リトルマーメイド」が来店。木のぬくもりを感じる明るいフロアで焼き立てのパンとコーヒーが楽しめる。



【国際交流ラウンジ】
留学生同士が交流をしたり、相談ができるラウンジ。時間帯によって、国際教育交流センターの職員が在席してサポートにあたる。また、留学を目指す学生に対するサポートも行う。



【コネクションエリア】
留学生と英語で会話を楽しむ「イングリッシュ・フレンズ・アワー」のほか、外国人教員や海外経験を有する教員が中心となって世界への関心を抱くようなイベントを開催予定。カフェ利用者からもイベントの様子が見え、世界への興味、関心が広がる。



【ワールドカフェ】
本学の姉妹校がある海外都市のフォトブックや海外版のスポーツ誌、ファッション誌などが置いてあり、自由に閲覧できる。コーヒーなどを楽しみながら世界の風を感じ、旅のイメージをふくらませることができる。さらに一歩踏み出したくなったら、同フロアの国際交流ラウンジで留学相談が可能。

6F Office Floor



【オフィス／吹き抜け】
5 階と 6 階は吹き抜けの階段で、6 階から 7 階へは別の内階段でつながっている。オフィスを挟むことで、5 階までの活気ある雰囲気と 7 階から上の学習スペースとの雰囲気を切り替える役割を持つ。「教育・学習支援センター」、「女子学生支援センター」、「国際教育交流センター」を設置。



【ラーニングサポートコーナー】
授業でわからなかった点などの補習を受けることが可能なコーナー。教員及びブスチューデントアシスタント（S A）による学習サポートを「日本語文章表現」に加え、今後は簿記、英語、数学の分野へ拡充する予定。



【こまちルーム】
女子学生が自習や交流、リフレッシュの場として自由に使えるスペース。「野原でピクニック」をテーマに、芝生をイメージした緑の床と白い家具を配置。ガラス張りの開放的な空間となっている。

7F ～ 8F Active Learning Commons



【7F プレゼンテーションコート】
円形の本格的なプレゼンテーションコートは、最大 100 名規模のプレゼンテーションを行うことができる。コートを分割することで、2 ～ 4 つのプレゼンテーションを同時に行うことも可能。フロアの誰もがプレゼンテーションを見ることができ、プレゼンターは聴衆をどこまで引きつけられるかといった高い意識で臨むことができる。



【7F メッセージボード】
プレゼンテーションコートの外側には、高さ 180cm の四角柱のブラックボードがあり、資料を貼ったり、ペンでメッセージを書いたりすることができる。プレゼンテーションの感想やアイデアを実践するための仲間を募集するなど、使い方は自由。



【8F こあがりリンク】
靴をぬいで座敷に座り、視線や姿勢に変化をつけることで新しいアイデアの創造を刺激する学習エリア。



【8F 知の壁】
「知の歴史」をイメージしたシンボリックな壁。木が積み上げられた壁面にいくつかの棚が設けられており、歴史にインパクトを与えた書物が置かれている。壁の前には全てデザインの異なる椅子と大きなテーブルが備えられ、多様な個性の調和と美しさ、大切さが表現されている。



【8F 透明な会議室】
全面ガラス張りの開放的な会議室。普段は閉じられた会議室で行っている教職員の会議を、あえて学生から見える場所で行うことで、働く大人の姿をイメージしてもらおうという新しい試みから誕生した。



9F ～ 10F Learning & Discussion Floor



【ディスカッションルーム】
小規模～中規模のディスカッションルームが並ぶフロア。各部屋は全面ガラス張りの防音仕様。他の部屋の様子やフロア全体の様子を見渡することができる。ゼミなどの授業で使用するほか、授業がない時には学生が自由に使用できる（予約制）。

【8F ワークショップルーム】
アイデアをより深め、仲間同士で議論をするために最適なルーム。床の色は赤、青、白、緑の 4 室があり、「活気ある話し合いには赤」、「落ち着いた話し合いには青」など、色の効果が学びに向かう気分をサポートしてくれる。



【8F TALK Box】
議論を深めやすく、学びの成果をブラッシュアップする場としてよりよいスタイルを追究し、ファミリーレストランのようなソファ席を配置。

挑戦と成長の日々

インターンシップ報告

企業や公共機関などで就業体験に取り組みインターンシッププログラム。将来を見据えて自分を磨こうと、今年度も多くの学生が参加した。充実した体験をした2名の学生による研修報告を紹介する。

●インターンシップⅠ(国内)●

研修先／広島エフエム放送株式会社



メディアビジネス学科3年
太麻帆さん
広島県高陽高校出身

憧れのラジオ業界で仕事の魅力を実感

ラジオを聴くのが好きで、いつも聴いているラジオ番組がどのように作られ、発信されているのかを実際に見て勉強したいと思い、ラジオ局でのインターンシップに参加しました。5日間の研修のなかで、

放送準備の手伝いや番組に必要な原稿の作成、収録番組の編集、生放送のアシスタントなど、さまざまなことを経験しました。なかでも印象に残っているのは、生放送番組のアシスタントを務めたことです。生放送中に番組宛に届いたメールをリアルタイムでチェックしたり、リクエスト曲を放送時間内に合うように準備するなど、状況に応じて臨機応変に考え、行動する力が鍛えられました。生放送を無事に終えたときの安心感が、今後の励みになりました。



スポーツ経営学科2年
前田佳保さん
島根県浜田高校出身

スポーツに関わる仕事を目標として

興味のある仕事を体験するなかで自分の適性を確かめたいと思い、将来働きたい業界のひとつであるスポーツ用品メーカーのインターンシップに参加しました。研修先では、工場見学や商談プロセスの勉強、営業同行やイベントの手伝いなどに取り組みました。幼い頃からバスケットボールが好きで、モルテンのボールには親しみがありました。インターンシップでは



研修中の様子

また、商品を販売するイベントで手際よく仕事をし、他の研修生と協力してグループワークをやり遂げた経験は、自分にとって大きな自信になりました。研修を通して身につけた習慣は、話を聞く時にはメモをとること、疑問はすぐに質問するようにになったことです。これから

また、興味のあることに積極的に取り組みたいと思うようになりました。将来の仕事として、プロスポーツチームの経営にも興味があるので、今後はプロバスケットボールチームのインターンシップにも挑戦してみたいと思っています。いつかスポーツの世界大会にも関わる仕事ができればいいな、英語の勉強にも力をつけたいと思っています。

私の就職活動体験記

努力と経験が夢実現の力に

就職先 広島県中学校教員(社会)



経済学科4年
谷本翔馬さん
広島県高陽東高校出身

教員を目指したのは、私の中学時代の恩師のような先生になりたいと思ったからです。中学生のときサッカークラブでケガをしてしまいましたが、以来、チームメイトとの関係がうまくいかなくなり、そのまま退部。そのような私に、顧問の先生は辛抱強く毎日声をかけ、部活に誘ってくださいました。結局、部活に戻ることができました。高校でも一度サッカー部に入学したのですが、先生



経済学科4年
篠崎隆佑さん
愛媛県松山北高校出身

将来のビジョンを明確に

就職先 愛媛県警察

将来は社会のため、人のために働きたいと思い、特に生まれ育った愛媛県に貢献できる仕事とは何かを考え、警察官を目指しました。警察官を目指すうえで第一関門となる一般教養試験に向けて早期から独学で勉強に取り組み、3年次からは大学の公務員養成講座を受講。公務員を目指す仲間とともに勉強に励み、公務員養成講座は、試験対策として役立った。ただでなく、将来、警察官として仕事に就いたときのことを想定して「物事をどう考えるべきか」「社会をどう見るべきか」など、実践で役立つ知識を学べた。削りだけでなく、どのような悩みも丁寧に話を聞いてもらえたので、自信を持って就職活動に臨むことができました。

将来は社会のため、人のために働きたいと思い、特に生まれ育った愛媛県に貢献できる仕事とは何かを考え、警察官を目指しました。警察官を目指すうえで第一関門となる一般教養試験に向けて早期から独学で勉強に取り組み、3年次からは大学の公務員養成講座を受講。公務員を目指す仲間とともに勉強に励み、公務員養成講座は、試験対策として役立った。ただでなく、将来、警察官として仕事に就いたときのことを想定して「物事をどう考えるべきか」「社会をどう見るべきか」など、実践で役立つ知識を学べた。

随想

12月14日、赤穂浪士の討ち入りの日である。忠臣蔵は芝居に浪曲、映画に歌謡曲と国民的な支持を受け続けている。浪士たちは義士として祭られ、事件を起こした浅野内匠頭は名君ということになっている。しかし殿中での抜刀は重罪であり当然死罪。本家筋の芸州浅野家は頭を抱え、事を穏便に運ぶために各所で奔走している。

「耐えて忍んで三百年」

―上野介と戦犯―

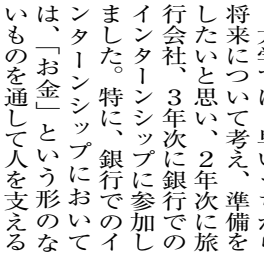
浪士たちの行動を正当化するには、相手である吉良上野介を悪の権化ということにしなければならぬ。非常に単純な構図である。単純であればこそ、いじめは悪、仇討は当然という設定は国民的の支持を得た。しかし

吉良の近くに三ヶ根山がある。太平洋戦争でB級(捕虜や住民の虐待)戦争犯罪人とされ、オーストラリアがラバウル等で実施した戦争裁判によって処刑された145名の慰霊碑が建立されている。その遺族や



岡本 貞雄 教授

裁判で服役された人たちは、その縁者などによって、今も慰霊祭が続けられている。そこには吉良に通じるものがあると思った。捕虜虐待の証言は敵味方双方にある。濡れ衣も多いが、その審判は勝者だけに与った。その事実を確かめよう。悪いことをした奴等がいたから、正義の国々によって日本は懲らしめられたのであり、騙された国民も被害者だ」という合理化が進行した。冷たい視線が蔓延する。戦後70年以上経過したが、いまだに声高にその責任をうちあげる輩も存在する。まさに「ど



経営学科4年
池田眞子さん
広島県大門高校出身

大学では、早いうちから将来について考え、準備をしたいと思います。2年次に旅行会社、3年次に銀行でのインターンシップに参加しました。特に、銀行でのインターンシップにおいて「お金」という形のないものを通して人を支える

お話しされている姿が印象的だったからです。私もこのように人になりたいと強く思いました。就職活動ではキャリアセンターのサポートがとても心強く、この大学を選んで本当に良かったと思います。エントリーシートは、削りだけでなく、どのような悩みも丁寧に話を聞いてもらえたので、自信を持って就職活動に臨むことができました。就職活動で苦労したこと、アルバイトとの両立、関西や関東などの企業説明会や面接があったため、交通費や宿泊費などが予想以上にかかりました。そのため、週3日は夕方からアルバイトをして、日中は就職活動、帰宅後にエントリーシートの作成やSPIの勉強などを行う忙しな毎日でした。それでも、「ここで頑張れるかどうか」が今後の人生を決めるカギだ」と思うと、自然と頑張ることができました。面接では、背伸びをして、自分の思いが伝わる言葉を選んで話すように心がけました。緊張しましたが、「どうしてもここで働きたい」という強い思いを素直に伝えることができ、内定をいただくことができました。就職後の目標は、迅速かつ丁寧に仕事をし、お客様から信頼される銀行員になることです。そのために、現在、ビジネスマナーや金融に関する資格の勉強にも力を入れています。銀行の仕事は自分の人生だけでなく、他者の人生にも関わる大切な仕事だと思っています。だからこそ、お客様に最善の提案やサービスを提供できるように、常に努力し続けたいと思っています。

私のゼミナール

73

経営学科
幸田 圭一郎 助教

卒業論文に追われる12月。私のゼミ第一期生も多分に漏れず、悪戦苦闘の毎日を送っている。とはいえ、10月に行われたゼミ対抗スポーツ大会のようなイベントとなれば、その鬱憤を晴らすと、ひととき目立つ盛り上げを行ったのも彼らである。ここに集まり、楽しい時間を共有している仲間、もはや偶然を超えた大きな産物であろう。

このゼミでは、実学的な要素が強い「ベンチャー企業」をテーマに教育を行っている。実際に会社をつくることよりも、いかにして他人の意見やアイデアを洗練させるかを念頭に、市場動向や起業理論、経営学一般などあえて幅広いテーマから、日常生活との関わり

は「ちょっと待て」と言える。仲間との存在はなにか。会社に限らず人生をも左右する仲間は「多様性」があればあるほど大きなヒントとなる可能性を秘めている。そのすべては決して無駄ではないはずだ。

一方で、その気づきを還元することも重要である。すべてが日常生活に繋がることも経営学の醍醐味であり、アルバイトやサークル運営など、さまざまな場面において、ぜひとも学んだことを活かしてほしい。

楽しい時間でありながらも、誰よりも私が緊張していた、冒頭のスポーツ大会における心の中の一コマである。

多様性と小さな気づき

私は、これまでに各ゼミ生が背負ってきた豊かな経験をもとに、一人では導き出せない小さな気づきをどれだけ見つけることができるかが、ゼミにおける最大の役割であると考えている。

(助教 簿記入門、簿記3級Ⅰ・Ⅱ、財務管理論Ⅰ・Ⅱ、ビジネスプランニングⅠ ほか)

経大祭 10/29・30

写真でみる

学生たちによる

広経大三大祭典

10月29日、30日の両日、第49回経大祭が開催された。テーマは「Be The Light」(光る、輝く)。メインステージでの文化系クラブの発表やアーティストライブの開催。文化系クラブのブース発表や模擬店など来場者を楽しませた。テーマ通り、キラリと輝く笑顔で溢れた大学祭となった。

ミスターコンテストの様子

書道部の作品展示

ダンス部によるパフォーマンス

賑わいを見せた模擬店

祇園・興動祭 11/13

11月13日、「第11回祇園・興動祭 共創～みんなつながる地域のお祭り～」が開催された。地域とのつながりや交流によって祇園地区を活性化させることが目的のお祭りで、子どもから大人まで楽しめるイベントがたくさんあり、今年度も約3,500人の来場者で賑わった。

各プロジェクトによる模擬店

地域の子供たちと触れ合う学生

恒例の福まき

人気のおばけやしき

「地方の時代」映像祭2016

奨励賞受賞

制作リーダーの小林俊介さん(メディアビジネス学科4年・広島県・祇園北高校出身)他5名の徳永ゼミナールの学生たちが制作したドキュメンタリー作品「忘れられた魂」が、第36回「地方の時代」映像祭2016の「市民・学生・自治体部門」において、奨励賞を受賞した。

宮島で亡くなられた原爆死者たちを追うドキュメンタリー番組で、お寺を訪れ、目撃者を探すなど精力的に取材活動を重ねた。昨年7月から撮影を開始。宮島取材だけでも延べ11回行なうと1年間かけて、完成させた。

取材の様子

表彰状を手に笑顔を見せる学生たち

保護者会秋季役員会開催

保護者会秋季役員会が川村勝彦会長をはじめ62人の出席のもと、11月24日広島ガールズパレスにおいて開催された。

役員会では、学事報告に加え、10月31日に竣工した明徳館の説明があった。その後の懇親会では和やかな雰囲気の中、活発な意見交換がなされた。

川村保護者会会長による挨拶

サークル戦績

陸上競技部

陸上競技部第85回日本学生陸上競技対校選手権大会

「10000」大下浩平(27位)「走幅跳」藤原駿也(4位)「110」ハードル「石本惣一朗」予選敗退「10000」競歩「山岡祥悟」(22位)

「第71回国民体育大会」走幅跳「藤原駿也」(9位)

「第28回出雲全日本大学選抜駅伝競走」(12位) 2時間19分01秒

「第60回全日本大学空手道選手権大会」男子団体組手 2回戦敗退 女子団体組手 2回戦敗退

平成28年度前期学位記授与式挙行

去る9月29日、第21回前期学位記授与式が、本学631教室において厳粛に執り行われた。

晴れて卒業の日を迎えたのは経済学部生36名(経済学科15名、経営学科16名、ビジネス情報学科3名、メディアビジネス学科2名)で、教職員と保護者が見守る中、一人ひとり学長から学位記が手渡された。

大きな目標を立てず、小さな目標から始めること、毎回の行動を起こす前にイチロー選手や五郎丸選手のよう、ルーティンを決めて継続すること」などの効果を述べた。そして最後に「将来、皆さんにお会いすると、ルーティンを見せたい。たかどろか聞かせてもらえ、そのことを楽しみにしています」と激励した。

前期学位授与式の様子

式辞に立った前川功一学長

経大の凄い人 特集 Vol.4

広島東洋カープの本拠地である「Mazda Zoom Zoomスタジアム広島」で実際に働いている女性から希望者を募り、オーディションを経て選ばれた、13人で結成されたユニットがGirls 2016。そこでキュートな笑顔と明るさで球場を盛り上げる彼女を要チェック!!

「プロフィール」

名前：松岡 真鈴
(スポーツ経営学科3年・広島県・如水館高校)

「Girls 2016」になったきっかけは「元々野球が好きで広島東洋カープのファン。アルバイトも野球関係のことがしたいと思い、Mazda Zoom Zoomスタジアム広島でビールの売り子を始めました。先輩に誘われてオーディションを受けることに。楽しい思い出を作りたい、大好きなチームを盛り上げたいという熱い思いが伝わりメンバーの一人になることができました。」

「日々のような活動をしていきますか」
試合の日にはビールの売り子として汗を流しています。また、試合がない日は「日々のような活動をしていきますか」

イベントの開催やテレビ番組、ラジオ番組に出演しています。

「活動の中で印象に残っていることは何ですか」
CSファイナル前日にエールエールでミニライブ＆握手会のイベントがあり、そこ今までになくらしいお客様が来てくださったことです。今年は特に広島全体が盛り上がり、イベントでも多くの方に声をかけていただきました。こういった形で広島東洋カープに携われることができて本当に最高です。

「将来の目標は」
広島のスポーツをもっと盛り上げていきたいです!!

自薦・他薦問いません。皆さんの周りの凄い人を広報課まで紹介してください!!

CC ダンスを踊る松岡さん

